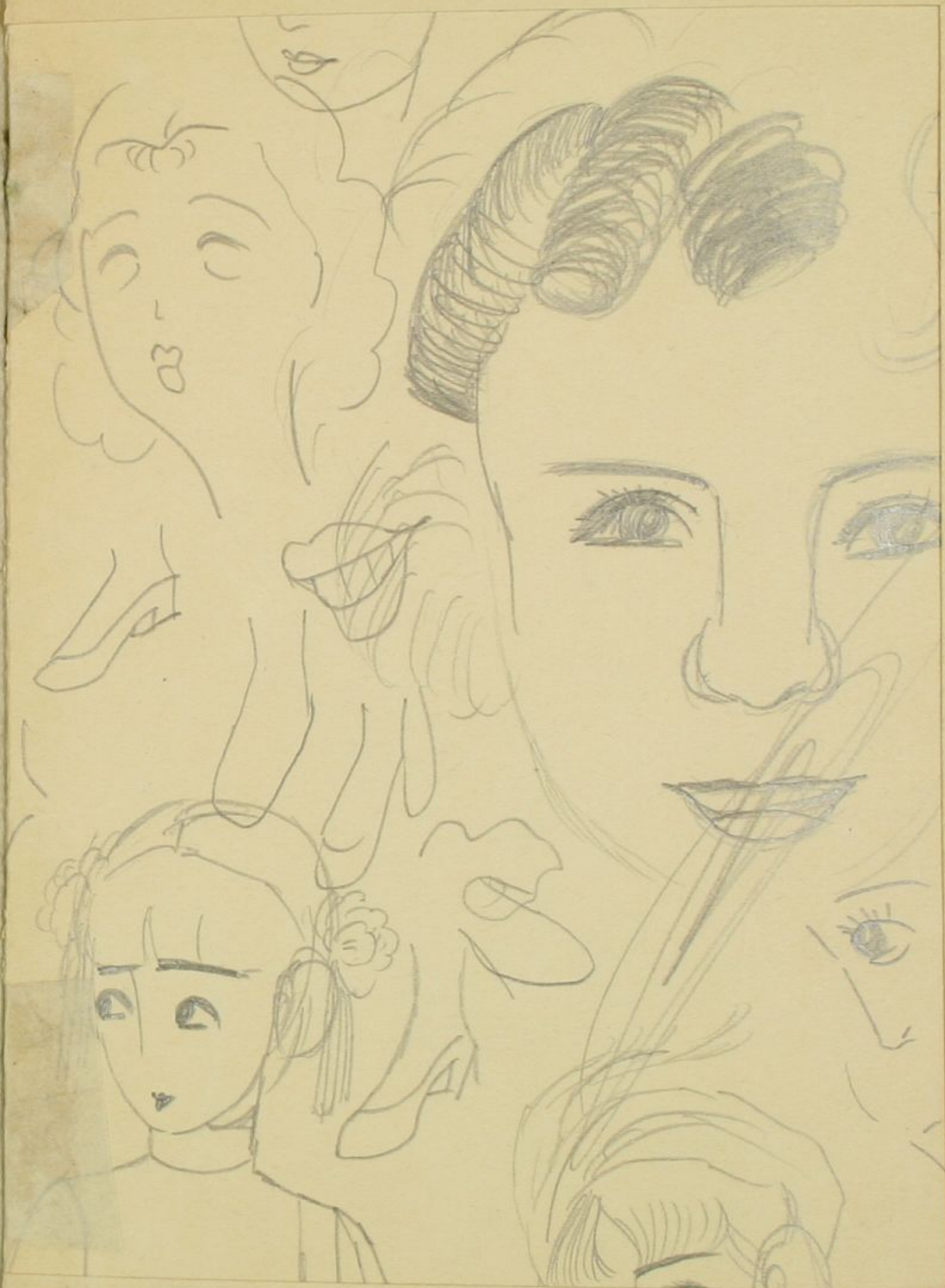


背の美

凡十景人衣、
 此景二柳、
 乃也、
 三又、
 以上、
 乃也、



正芳堂





庚戌
歲旦



春少あやうく
 十六里花乃山 若翁
 寺、詠、途、志
 初日去々雪 益風
 了久比壽此々々々
 一盃小声付り亭 凡十

聖節

仔細方乃海鳥く
くすやを川可親 山二
ちとせ祝ふく 一
貝を河く玉 若翁
み片きりお運ふ
催ふふうらくふ 夏雪

歳暮

髪ゆみの振音

山二

せハ 大二十日

春興

蘭玉やきり羽子 全

かゝる奥歩殿

歳旦

母_レ子_レ并_レや_レし_レ受_レれ_レる_レ終_レ凡_レ十

蓬_ニ菜_ニ拜_ス北_ニ堂_ヲ若_ニ翁

歳暮

旅_レ一_レ床_レ人_ノの_レあ_レま_レと_レ凡_レ十

お_レり_レひ_レき

歳旦

若_レ水_レ也_レ矣_レ教_レく_レは_レ家_レ合_レ井_レ戸_レ夏_レ雪

曙_ニ色_ニ自_レ梅_ニ分_ル若_ニ翁

歳暮

ま_レい_レり_レ戸_レ筋_レ之_レ雪_レ若_ニ翁_ニ夏_レ雪

あ_レは_レ枝

歳旦

大病中復の春と迎ふ

昔ハ樂トカリクニ定メテ哉益風

壽觴春色開若翁

歳暮

嘗乃舞はくろム也益風

〜〜〜

立春在暁

亦如ハハ枕潜リ如春乃門若翁

歳旦

初来風如の川に如かき雲皆を有補

山乃井ひくく梅於下陰百堂

沈の外社改如春小音と水一峨眉山

其二

元日や元日とけけいけいさ 百堂
度ましく先く俗屠蘇の盃 峨眉山
新殿すあこのけ袴まのきて 有補

其三

ち清日や氷乃上けりす流 峨眉山
柳のいけりまき馬陽 有補
春風や女を都巡ららん 百堂

宋抄

年急く大路のまほ茶の賣売 百堂
穿^テ霜^ラ 轍跡 寒^シ 若翁
荒物け小店ゆくき脚走る如 塚有山
樵夫 肩^ヒ雪^ラ 來^ル 若翁
うそまの一寸先ハ花の春 有補
除夜 未^ダ眠^ラ 人 若翁

備後尾道社中

歳旦

福業や脛小あけ来る素袍を 文彩

春光七 貴門 若翁

中書

いとやうく雪と積りり宝舟 文彩

春真

多きうりり水辺に花より岸の州 全

雑旦

風々ぬ山や林小蛇乃春 稲井

黄鳥 出_二幽 筠_三 若翁

年尾

衣々けり笑顔と又た手燭水 稻井

春真

庭掃と譜代者なり松の花 全

歳序

すゝけ江の曙よふ乃松かき茶橘

雲霞映_レ海_ニ新_リ若_シ菊

年杪

豆とや次色はもさや松屋次茶橘

春真

せり暮かふくそりや生菜籠合

さい息

花雪れ山口志存一争け免_カ風絮

風月自_ニ入_ス春遊_ニ若_シ菊

せい言

むやかりく_レ蹄の翼た_レ木樵凡絮

春真

やかりきく_レ枝や_レふよ雪し_レ与_レ今

山本旦 集書

うらよふふあは浦浪とくは花 翠山
志川くさや雪はむ除あは人さ

同

かきり海老子代は川代の蟄ニッ 其明
年の惜むむハ急く我き空

同

さ水や先ち復祢の向ハく 鶴千
終むさきけや月 雪の花いろ

樽元小先千石よき我けり免 野華
鯛や鯛塩小妻はくは市
象やとね世やゆき糸は飾ハ 文荷
夷待やがりのきよらけり自在金
正直のかみ金拵り治世飾 竹村
木乃桑もまゝ一合祢や札納
扇蘊の酌やうが髪小くせき 艸雨
松の葉は葉掃よすや大三千日

初空やゆれぬる眩るまは此松
 嵐雀
 と一もやむと向う少き川
 船の入すちや初日は替の声
 世湖
 うらひすと移かす列卒や茂季の
 簾捲く不二れ言根や清代の去
 鷺橋
 ひはまぬとも小く花乃古房
 やり羽子や先蝶多きを流る人
 螺蛳
 末はあまらぬ末や床お乃雨

山梨旦

妻は川や日くく備ぬひ初人女
 要之
 候はきたる酒飲せり薪賣

同

初より心く玉掃ふ手鞠女
 如梅
 双六き事おはせりさきと忘

同

雑煮は川端一壺更須の笑歌を
 如弦
 厄拂大詠の松小くす

峯且 早末

齒原木のくくきむ岩戸の如きめ 芳雨
よ空にかりくきむ雲のひく年言ぬ

同

古く名葉子が侍くくくく 社の妻 社君
我らちの人といえんまき 拂

春奥

侍く侍ひの侍子ハ原き餘定く水 全

駕下りく侍の茶屋は妻日う那 芳雨
ま竹ハ手経りく見く生及く水 如弦
き乃瓜やきくかくさ不む芥 如梅
凍とけやの侍くきくまてん 要之

春奥

侍くくく救は藤本の間く案 蝶榎
ふ魚や月くく見を月此色 雪橋

七ふ種やあしうさめまひ
石臺の松うえゆる子ね
費之小名付きまてや揚海苔
月花のやまもりくそ猶れ
うらいたれ春よりり庵の水
梅かゝ翠藜あふりの白
縁先や梅の耳うさの白
梅のまゝ川延
女夫
其明

春真

梅のまゝ川延
女夫
其明

うらいたれ朝日待
柳
翠山

春真

うらいたれ
貧乏
去月菴

伊豫今治社中

歳旦

忘蘊れ香の流しありん君の春不傾
聖徳與レ年新り若翁

歳暮

煤掃く膏は廣く魚り燈不傾

宵旦

川と空を和風と角の正柳の芽 全

東君

大紋く藍はくく初處嵐丈

金城士是は花若翁

歳除

恭平の名とり清く和也
市嵐丈

春旦

風流男と人をれ告は梅乃門 全

三元

春島姑道おし合ん春乃春 楓國

嚶鳴 求ム又ラ人 若翁

守歳

子宝此系せりわし系ハ舟 楓山

宵月

舌ノ升リ教シ掌シれを月ノ青ク水ノ全

迎陽

蓬萊ノ先ノ妙ノを和シ去リ風 風酪

年 華 見ル海 東ニ 若翁

除夜

空ノちりわさ川ノ水ノ照ス星ノの教 風酪

真五

空ノ名ハ小ノ指ヲ為ス青ク月ノ全

菜旦 果本音

帝聖樹枝のめぐりや初日は出 大阜
きくはるまきー其はあまは梅の風

同

君う代や庶種のみけふ十万家 木音

ふまふれ方とと種ーと直乃豆

同

先ひりりー母は花や福壽州 松月

高得りりーお隣の宝ーつね

同

鶴の遊ひきしきけふ田乃初日 丈水

むと越すきりて安ー年の夜

同

うまーもも同ーをさへー門乃喜 静波

むらり自ふ山口志原ー年を昇

同

其やとねと出悉いー侍酒何斗 千歳

降まふはまは粉雪を年物に枝

同

門並に松の音やう川は空 柏茂

月あまの海岸は狭きよき市

中本旦 年尾

かしく世はなかりたのき 馬來

煤掃くまよりかからん

日

杏ハ松の房みより初かすみ 其梅

麻をがう年尾上の夕日

日

暎にき玉かの松は初日うけ 巴水

世乃ちや年尾名流の雪五又

日

蘆迷ふは山口をふき初日うけ 車南

之免しややま侍兼し年種子

日

あけきくむ空や外山を年尾集 涼風

實りたりは切戸は丹後砂

日

御めくも先元朝の尊 氷
露光
こしとやくもあやはなきぬ死

日

赤いさうくちく水達しと船の春 梅國
さうさう風のひきや除おれ松

日

蓬萊の林森れ松や門かきり 蚕月
世し一室や居間とさき候造

日

すかたぬる唐代のさうくち初り教 凡風
言てりしと標や雪乃松
冥ろさうくと休や初日おと津神 挹波
とぬ濃や右性左性ふ人も我を
うちあし人のきと和と船の春 沙島
と年お内ふ春とさうくち松と免桂
玉みくく宿や福壽れむしの春 巴龍
若季水ふ門先接し雪れ船

春五

春の物のあはれをいそぐもなき
静波
子繁
在郷にけり先子吹送る何女
松茂

春五

まり垣に中子羽根はく夕の如
る来
仰光にけり波をうらみみよ木
其梅
於ての梅吹風を待たせり
巴水

春五

雪や白ゆかりの雪に去刀
車南
相織る梅を掃除けり糞取
涼風
木々若芽をあてはくまこと生る路
春光

春五

む免涙や野にさか乃はの星月お
梅心
うらひすも脱ぐ於るの草のさや
蚕月
まら奥にさかた名花かすみか
儿風

春五

忽然と暮れけり梅の心
抱波

雪解けのち菜花浅みより
一二月の菜花のちやちや 巴 然
うらひのち窓小朝日ののちより 夢 情

春 雲

大路ゆく菜花も春のけしき 春秋
菜のくち内はち菜の小棚賣 卯七

春 貞

下町ふらふらとふらふら
のちの菜の花 早 舞 坊

伊豫朝倉社中

歳旦

元日や今も祓代の初めけ 一貫

道傳 吾 國ノ 春 若 翁

歳暮

師走もくぬおまはり 一 貫

春 貞

梅さくや人けうのちや 廣 全

采旦 采菅

お念ふ不二のうはくや初日乾 魚貫
切くや鹿々鼻の地ハおほろ

曰

元政をふぶちりおのれは流る如 一平
梅、根よりとらふふり年の度

曰

大腹や朝日おまき身いあり 篠山
何よりとあやれおしんえり

春鳥

寺ゆゑや雪とさうりりと株柳 魚骨
かけ後うやおはさすのこほまより 一平
人あゝおとろたもく火の梅刃が 麓山

春鳥

うらゝい毒や
ワの輝とく
去月菴

都入

伊豫波止濱社中

歳序

雪水やかろくぬ手代のをき湯 花雀

風 煖ニ柳 條 伸ノ 若翁

年尾

箸持とを希冠者つりしと忘 花雀

春奥

川舟や柳小回し帆を揚ぐ 全

雞旦 果末

寫乃篋を惠方共くらぬ 花明

塵の世おろりおほきよ大世日

曰

た川霞をりふ解よ山乃帯 燕石

みんとりいよく席はきぬ大二十日

曰

ぬくく小松の景流ふす川日 鮎夕

いよ〜とやぬもはるけく家の風

曰

いさふきけよ大肢の必り那 蕪川
若季の追まゝよ一人の足

曰

初難と申より春姑う代取 文栄
う免うあめを麻し又う河走ら

春真

ころまやゆき都は川しき とも
よれよ我田と踏くも栗摘 蕪川

麻くや家女客あり春姑も 蕪川
天人のりつきねり美世の 蕪川
うらたにがりぬや末おきの声 文栄

春真

蕪川

長老の漸汲家の人えれも 六日市 風鬼
うらたや山ゆしに話ふ友と 全 春曙
春姑も都は 全 文栄
月し日し 全 三月に柳 全 柏潭
山 全 雪降 全 友

歳首

松かきり我ホくきも何なる豫植春峨

衣ハ煖ナリ聖君恩若翁

暎盡

着ハ余浦乃ハ蚤ク海英家

春真

蝶ハ津田ニ早ク升生島

全

歳暮歌仙行

晴ハ自ハ憂ハ吹ク如ハ沙ニ走ル若翁

梅乃ハハ味ハ掃ル此ハ空

有捕

茶ハ乃ハハ組ル元ハ十ハ〇

月ハ乃ハ真ハ乃ハ馬ハ五ハ尺ハ百ハ堂ハ峨眉山

居酒ハ乃ハ山ハ乃ハ秋ハ若

柳紅葉紙布織客坊うちやま

正 直坊の物くあふふやま

再此自ハハクより先此りきり

風印のち直田亦此へ

ト原より花と柱ささ

女房呼々去此りきり

アも橋の之置此後とあへ

二 名て来々若く橋の状

十

山

和

若

堂

十

十

十

新ちつきとて人のかげり

月一節遠く如意輪が顔

持て川声はききあふ小

干綱自少くはくや見ゆ

うねりて捨るおき菓子袋

人へ是りて老れすふやう

朝日此日和進りて裕忌

縄手ふちやき掛垂の店

十

山

堂

若

十

山

十

十

十

建武二年僧もなほめくよ中
くよし 一掃此等よ張る
弁派く果ぬき旅の秋乃
勢くはもぬかえんハ一掃
月教く袖を切刀巻くよ
左近くりりく女め 一掃
月をやひく人よ清くもあり
いけくは殺さく清きく
若 堂 山 十 浦 亭 空 若

^{ニウ}百費此等自か依背替
吉伎律の令此今きよ水
水はきみ乃菅川此朝朗
まぬり 一のを階くく
咲花も菴ハ小結の鈴 一掃
菅 鮑の交さくものけき
若 堂 山 十 浦 亭 空 若

冬景

あきまきしをきうと我おひ

雪此等

若 堂

浪義社中

歳旦

年柳や直須大正月と花汗泡

春来福満一家若翁

歳暮

坊能く暮よ分入はよ少汗泡

真吾

鹿出免くもやぬきみり谷水今

歳旦 翠峯

我宿此款新しこれの春由二
世凡雅れ可トカリと

翠旦 翠峯

永きおと一免や門の手代又春 佐人
去とやいんをいんをの梅

翠旦 翠峯

松苗く花や驚くじはれ春 白亭
候摘や世りて振早人近隣

歳旦、日本音

手代といひ又ちとしりいむれ妻
門脊より壽の音や年をね
春格

さいえん せいの木

えんすゝきりしりてるん

松かきりけし神乃めくこく
花乃山ちりり年のは
女

年序 年尾

掛廻や橋と流は梅家申士
ゆくゆくは玉の塩は水とも
逝

歳首

蓬菜より芽かゝ楓や海老乃
和宮

迎_レテ 壽_ヲ 日 初_テ 遣_レ
若翁

年杪

望あつて月と雁ん〜忘
和宮

春鳥

石垣や一花ゆく不と妻は
孝

春興

若菜うきき里小跡此今し如直隠

春 雪 不レ應^セ 簑^ニ 若翁

春興

すきうきしに詣りし

おもしろかた奥中^ニの淡路島 亀友

海 日 映^レ 松^ニ 春^{ナリ} 若翁

春興

菽垣^ニ一咲や椿^ニか蒼くも 関山

一 徑 草 初^テ 芳^ニ 若翁

春興

二月や大門口^ニの清き馬 鷺雪

遊 絲 繞^ル 翠 樓^ラ 若翁

春真

五葉いし川なりしかる案
谷乃梅

凡十

いく浦々光りてあけり

夕かすみ

夏雪

去来さやめくともさしき

梅乃風

蓋風

あゝ川よやそ帰るるに

く免自ふ

有浦

佳なりての道くき換櫃や
猶乃意

百景

あハ雪や世よかりしを
けの言

城角山

春真

ち家の風日ふく吹くを望

一甄

昔は晴かきく日私るに

楓字

おし多はゆふく善此水

秋并

うらひすは啼や新瑞のりし者

西春

乃竹也久炮爆姑海り古
野角
梅咲く宿く彼もあへり
由二
喜きく冬はく水りあへり
佐人
ちふの雪楯乃廣きや命へ
飛白言

春奥

うといすよ情女うらゝ忘るれ
井六
雪うすもひりよ梅は一向り
望路
仁うすけぬ歌く梅又飛
岸白
かえきくや布織多う定れち
魯谷

三日月此歌川小田此根芥飛
玉屑
塙越一の梅りりりや陰去柄
長つ
羅局
かけ流るや蟹此髪木寸沖れ石
行考
桃義

春奥

西東か考話ふ追ふ也
牧乃約
くくいす如氷うひく
初音飛

肥前
眠席

全
琴腰

春興

月は梅あけくさばけの自いし水
夜遊 春殿 閑 若翁 桃居

客のハましそらん来は青 尺艾
梅花 入レテ 笛 飄ル 若翁

麗景

うさひすや山と水と 全

我予其

浪花 石原茂兵衛梓

寛政二

三

